

# 狂言には 世界共通の面白さがあります

ダン・ケニー

米軍将校が狂言師となつて150曲を英訳！

半世紀前に海軍将校として来日したアメリカ人は、狂言師となつた。  
狂言師として、翻訳家として、約600年の歴史をもつ「狂言」を世界に伝えるダン・ケニーが、  
彼を魅了した狂言の面白さを語る。

取材・文・関根徹  
写真・鈴木七絵

Don  
Kenny



「しびり」の太郎冠者の衣裳に身を包んだケニーさん。少年時代から声楽を学び、狂言に出会い、鍛え上げてきた声は朗々としている。



2012年夏には、大日琳太郎さん(中央)とともに、ケニーさんの日本語朗読に合わせ、2人の役者が動く形式で、東京と仙台で『しびり』を上演した。

ことはわかつていましたから、紹介者を探し続けて、ずいぶん長い時間を要しました。

海軍は三年で除隊になるのですが、来日二年目からは上智大学で日本語を学び、除隊になるとすぐ日米英語学院で仕事を始めました。普通の水兵たちは日本で除隊になることができる

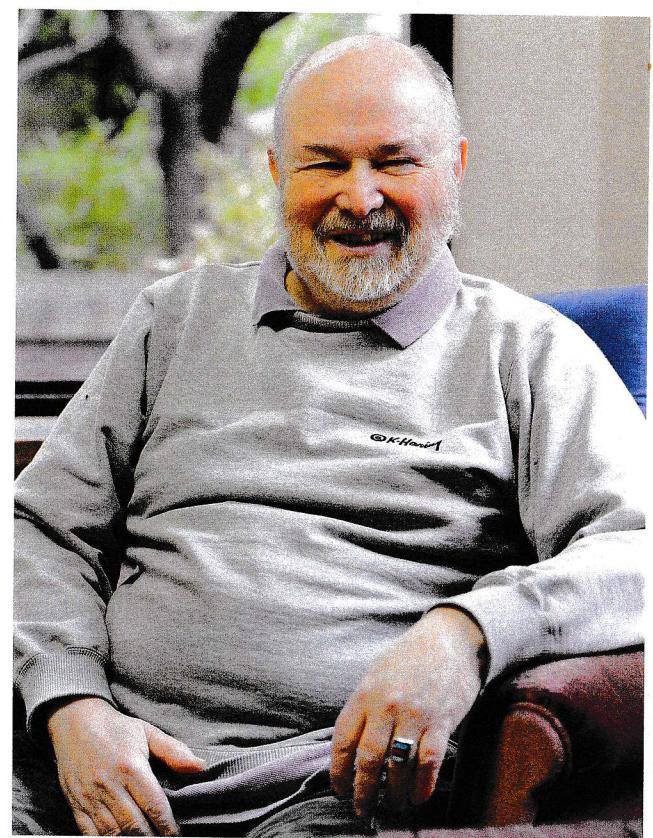
ことはわかつていましたから、紹介者を探し続けて、ずいぶん長い時間を要しました。

海軍は三年で除隊になるのですが、来日二年目からは上智大学で日本語を学び、除隊になるとすぐ日米英語学院で仕事を始めました。普通の水兵たちは日本で除隊になることができる

が話せるガイドに案内してもらいました。大仏はもちろん、長谷寺、鶴岡八幡宮、鎌倉宮、そして十二所神社。ここは岸壁の下にある非常に渋いところなのですが、ちゃんと神楽舞台があって大好きな神社です。

次に歌舞伎に行きました。二階の真ん中の、天皇陛下が見えたらお座りになる席が取れたらんです。演目は、中村歌右衛門(六世)、松本幸四郎(八世)の「積恋雪闘戻」。とてもすばらしくて今でも覚えています。

それからしばらくして三越劇場で観たのが、狂言でした。確か九世三宅藤九郎の「韃猿」だつたと思います。それでこれをやりたいと決心したわけです。もともとオペラ歌手になるつもりで、四つの時からピアノを習い、教会でボーカソプラノを歌つたりしていて、中学の頃、声が変わつてからは個人教授について声楽をやつ



ダン・ケニー  
アメリカ・カンザス州出身。人間国宝の狂言師・野村万作師のもとで狂言を学び、数々の演目を英語で翻訳し、世界各国で英語狂言の公演を行う。『英語で話す日本の文化』(講談社)など、日本文化・狂言に関する著作や翻訳を手がけるほか、アイリッシュハーブの奏者・指導者としても活躍している。

## 東京五輪の年にすべでが始まった

野村万作先生を初めて観た時、この方に教わりたいと思ったんですが、アメリカのように弟子にしてくださいと直接行つてもダメだという

オペラ歌手のように声を使える芸術があればいいなあとずっと考えていました。だけど、ミュージカルは毎年新しいものを上演することになりますから、ダンサーのように体を動かして、

度、サンフランシスコに戻つて、二週間かけて手続きを済ませ、やつと朝の十時に、はい終わりました、これであなたは自由になりますと言われ、その日の午後一時の飛行機に乗つて日本に戻つてきました(笑)。一九六四年に早稲田大学に入り、同じ年に万作先生の弟子になりました。東京オリンピックと同じ六四年にすべてが始まつたのです。

万作先生は、シアトルのワシントン大学で、一年間、客員教授として、狂言を教えていたことがあつたんです。向こうの担当の先生は、日本語で狂言を上演させようとしたらしいのですが、学生は日本語を勉強している学生たちではなく、演劇を学んでいる学生たちですから、それでは意味がない。彼らのためにならないし、お客様も意味がわからないから、英語で上演しましようとした主張されたそうです。それで学生たちに翻訳してもらって、英語で上演したのですよ。その体験がとても気に入つたらしく、帰国しても、外国人で長続きしてくれる生徒がいればいいなと思っていたところに、うまく僕が入つたわけです(笑)。

最初は交換授業でした。僕が先生に英語を教えるて、先生が僕に狂言を教える。勉強に使うデータがまだオープンリールの時代で、運ぶのが

大変だったこともあり、僕の家に来てもらつていました。そのうちに先生が戸惑つていらっしゃるようを感じました。一時間は生徒、一時間は先生ですから、言葉に混乱し、耐えられなくなつたようです。二年くらいたつと、先生も忙しくなつたし、英語はやめましようということになりました。そこで、僕が稽古に伺うようになったわけです。その頃になると、携帯用の小さなオープンリールテープができてきて、それを持参して全部録音しました。

初めてから狂言の翻訳はするつもりでしたし、万作先生も英語でやるべきじゃないかとおつしやつてくださつたので、劇団を作ることにしました。そこで、七一年から一緒に稽古して、小川七郎くんと、活動を始めることになつたわけです。劇団の名は、「ケニー・アンド・オガワ 狂言プレイヤーズ」。七五年から開始しました。

国内では国際婦人会とか、アメリカンスクール、日本の学校にも呼ばれましたし、日本と外国との交流協会のような組織がたくさんあつて、そういうところでも上演しました。自主公演も数多く行い、外国には全部で三十三回行きました。アメリカが主体ですが、オーストラリア三回とカナダとイギリス。フランス語を訓練して、パリのソルボンヌ大学でも公演し



「狂言には悪い人は出でこない。いい人だけ(笑)。それも僕が狂言が好きな理由のひとつです」。

に回復して、国際交流基金から派遣された南米にも一緒に行きました。ところがその地でまた、脳梗塞に襲われてしまったのです。それでも長年の経験の賜物でしょう、八回の舞台はきちんとこなすことができた。しかし、一年についに亡くなってしましました。

今はアイリッシュハープのほうを集中的にやめたわけです。そうすると、小さい街ですから、街中で評判になつてしまい、父親が今度は、「ハムレット」を見つけてきてくれた。その時からシェイクスピアを本格的に読み始め、中学を出るまでにはすべて読み終わりました。

シェイクスピアの英語は、現在の英語とは違います。いちばんすばらしい英語だと、私は思います。いちばんすばらしい英語だと、私は思っています。とにかく四年ごとにシェイクスピアを

いました。そこでは幼稚園から高校までが煉瓦造りの四階建ての建物に入つていて、地下は体育館、上は講堂になつていました。小学校三年生くらいの時だつたでしようか、家にあつた『ロミオとジュリエット』をペラペラとめくりながら、講堂で父親を待つていたら、高校生が来て、「お前、何読んでいるの?」と言うんです。彼らもシェイクスピアで苦労していたんですね。「ロミオとジュリエット」でございます」と答えると、「お前、読めるのか」「読めるよ」「じゃあ教えてくれ」って(笑)。「では明日から、一場面ずつ教えますよ」と言つて、ちゃんとで

きました。そうすると、小さい街ですから、街中で評判になつてしまい、父親が今度は、「ハムレット」を見つけてきてくれた。その時からシェイクスピアを本格的に読み始め、中学を出るまでにはすべて読み終わりました。

シェイクスピアの英語は、現在の英語とは違います。いちばんすばらしい英語だと、私は思っています。とにかく四年ごとにシェイクスピアを

いた主人は盗人をからかってやろうと、猿とか、犬だとか言つて、鳴きまねをさせる。最後に鯛だと言われた盗人が「タイタイ」と鳴きながらびょんびょん退場して、それで笑つてもらえるのです。鯛は英語で「シーブリーム」と言います。アメリカではそれほど知られている魚ではありません。仕方ないので、「ブリムブリム」といながら退場して、それで笑つてもらえるのですが、もう少し直接的にやりたいなと思つていて思いついたのがキリスト教です。魚はキリスト教でおめでたいものなのです。ギリシャ語で、「イエス・キリスト・神の子・救い主」の最初の文字を繰り合わせると、「イクトウース」という魚を意味する言葉になります。つまりキリスト教の象徴は魚。それなら魚のままでいいじゃないかと、「フィッシュフィッシュフィッシュ」と言つて逃げたら、みんなよ

く笑つてくれました。

トータルで百五十曲ほど翻訳しました。大蔵流と和泉流では数え方が違いますし、一方にあつて一方にない曲もありますが、現在、行われている曲は、全部で二百五十四あります。ですから半分以上の狂言を訳したことになります。

ただとても残念なのは、一緒にやつてきた小川くんが九九年に脳梗塞で倒れたことです。その後、二〇〇四年にも倒れたのですが、奇跡的

もとで、「翻訳、明日締切でしよう。やつておきなさい」などと、姿は見えないけれど、話しかけてくれるんです。それほど強い結びつきだった小川くんが亡くなつてからは、積極的に劇団を作ろうとか、自分で舞台を見つけようといふ気持ちが起きなくなりました。

今はアイリッシュハープのほうを集中的にや

っています。狂言とは関係ないと思われるかもしれません。僕が興味があるのは初めから日本の大衆音楽なんですよ。狂言も、大道芸人の歌と踊りと寸劇でできた大衆音楽のひとつです。ここ最近では、ハープのために、「さくらさくら」などの楽曲を自分で編曲して、英語の歌詞などを付け、演奏会で披露したりしています。

狂言の良さは、形、動き、声が、一見、珍しくとも、内容に関しては、言葉さえわかれば、どこの国の誰もが面白さを感じられるということです。華道とか茶道は、見ればすぐ感じられるけど、内容は説明されればされるほど深くなつていく。狂言は逆で、見かけは難しいけれど、内容は誰でも理解できるような人間関係です。

狂言はお芝居だと言う人がいますが、私はそうは思わない。六世野村万蔵先生も、能と芝居との間に細い線がある、それが狂言で、まずは様式、音と形がすごく大事だと自伝で書いています。狂言に登場する人物はみんないい人、悪い人は全然いない。悪くなるううと思つても失敗するわけです。そこを真剣にやる。だから、面白い。それなのに、役者が皮肉を込めて写実的に表現すると、もうつまらなくなつてしまう。狂言は真剣にやればやるほど笑いが出る。それが本当の狂言だと僕は思つています。

ました。

よく普通の日本語を訳すより狂言の翻訳のはうが難しいでしようと聞かれますが、私の場合、子供の頃から好きだったシェイクスピアが役立つていると思います。父親は、人口三百人程度の小さな街で、牧師と高校の先生の両方をやつしていました。

そこで幼稚園から高校までが煉瓦造りの四階建ての建物に入つていて、地下は体育館、上は講堂になつていました。小学校三年生くらいの時だつたでしようか、家にあつた『ロミオとジュリエット』をペラペラとめくりながら、講堂で父親を待つていたら、高校生が来て、「お前、何読んでいるの?」と言つうんです。

彼らもシェイクスピアで苦労していたんですね。「ロミオとジュリエット」でございます」と答えると、「お前、読めるのか」「読めるよ」「じゃあ教えてくれ」って(笑)。「では明日から、一場面ずつ教えますよ」と言つて、ちゃんとで

きました。そうすると、小さい街ですから、街中で評判になつてしまい、父親が今度は、「ハムレット」を見つけてきてくれた。その時からシェイクスピアを本格的に読み始め、中学を出るまでにはすべて読み終わりました。

シェイクスピアの英語は、現在の英語とは違います。いちばんすばらしい英語だと、私は思っています。とにかく四年ごとにシェイクスピアを

再読し、それを基礎に、自分の様式的英語を作りました。すると、例えば、狂言の「このあたりのものでござる」といった言葉は、すべてそのモジュール（基準）にはめこむことができるのです。

言葉遊びで意味まで意訳しなければならなかつたのは、「附子」でした。これは主人が家を留守にするにあたり、太郎冠者と次郎冠者に砂糖を食べられてしまつてはいけないので、砂糖を附子という猛毒だと偽つて出かける。そこから面白くなる狂言ですが、附子と留守とをかけられた「バーソン」。しかもニューヨークのマンハッタン訛りでは、人は「ボイスン」と発音します。誰でもそれを知つてるので、すごく笑つてくれました。

狂言は真剣にやるほど面白い

擬声語は日本語をそのまま使えますが、私は意味のあることはすべて翻訳したい(笑)。そこで、もうひとつひつかつたのは、「盆山」です。盆山というのは、今の盆栽のことですが、それを盗みにきた男が、盗みに入った先の主人に気づかれたため、盆山の陰に隠れる。盗人がかねて盆山を欲しがつていた知り合いだと気づ

いた主人は盗人をからかってやろうと、猿だと

か、犬だとか言つて、鳴きまねをさせる。最後に鯛だと言われた盗人が「タイタイ」と鳴きな

がらびょんびょん退場するところが面白いわけ

です。鯛は英語で「シーブリーム」と言います

が、アメリカではそれほど知られている魚では

ありません。仕方ないので、「ブリムブリム」といながら退場して、それで笑つてもらえるのですが、もう少し直接的にやりたいなと思つていて思いついたのがキリスト教です。魚はキリスト教でおめでたいものなのです。ギリシャ語で、「イエス・キリスト・神の子・救い主」の最初の文字を繰り合わせると、「イクトウース」という魚を意味する言葉になります。つまりキリスト教の象徴は魚。それなら魚のままでいいじゃないかと、「フィッシュフィッシュフィッシュ」と言つて逃げたら、みんなよ

く笑つてくれました。

トータルで百五十曲ほど翻訳しました。大蔵

流と和泉流では数え方が違いますし、一方にあつて一方にない曲もありますが、現在、行われ

ている曲は、全部で二百五十四あります。です

から半分以上の狂言を訳したことになります。

ただとても残念なのは、一緒にやつてきた小

川くんが九九年に脳梗塞で倒れたことです。そ

の後、二〇〇四年にも倒れたのですが、奇跡的

でした。

トータルで百五十曲ほど翻訳しました。大蔵

流と和泉流では数え方が違いますし、一方にあつて一方にない曲もありますが、現在、行われ

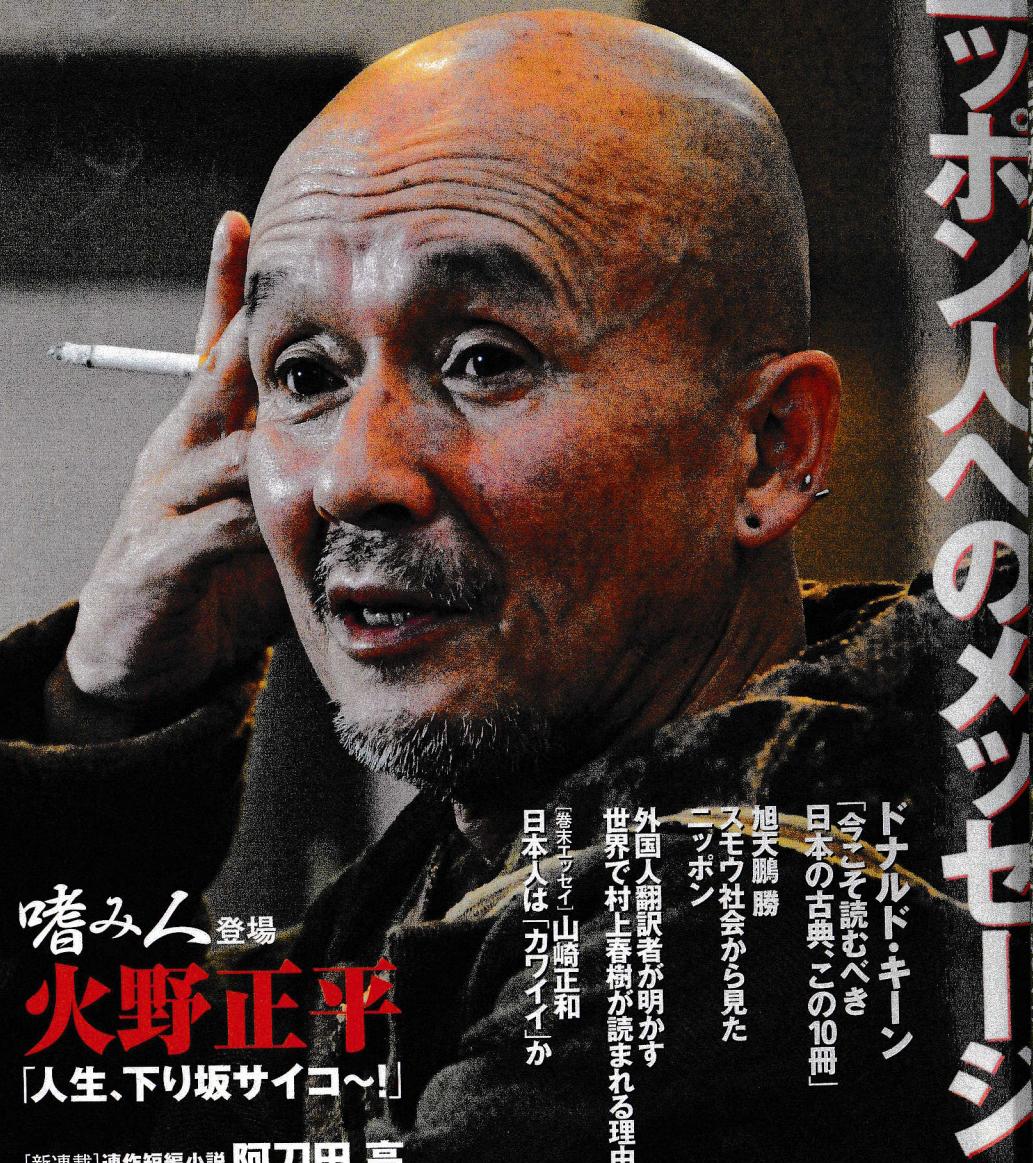
ている曲は、全部で二百五十四あります。です

&lt;p

# 嗜み

TASHINAMI

たしな



嗜み人登場

火野正平

「人生、下り坂サイコ～！」

[新連載]連作短編小説 阿刀田 高

日本人は「カワイイ」か  
巻末エッセイ 山崎正和

「今こそ読むべき  
日本の古典、この10冊」  
旭天鵬勝  
スモウ社会から見た  
ニッポン

ドナルド・キーン  
「今こそ読むべき  
日本の古典、この10冊」

特集

ニッポン人へのメッセージ

2013 Spring  
No.18



9784160087729



1920095007625

ISBN978-4-16-008772-9 C0095 ¥762E

定価 本体762円+税  
制作 文藝春秋企画出版部  
発売 文藝春秋



[特集]ニッポン人へのメッセージ